



今月の特集

# 脱炭素社会の 実現にむけて

いま私たちが  
取り組むべき  
環境問題とは



温室効果ガスとは何か？

昨年10月26日、第203回臨時国会の所信表明演説において、菅首相は「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」と表明しました。これを「カーボンニュートラル宣言」といいます。カーボンとは炭素のこと。「排出を全体としてゼロにする」とは、排出をすべてなくすことではなく、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量から、森林などによる吸収量を差し引いた「実質ゼロ」を意味しています。

温室効果ガスとは二酸化炭素・メタンガス・代替フロンなど7種類のガスのことで、これらは太陽からの熱を大気中に封じ込め、地表を「温室」のように暖める働きがあります。現在の地球はこの温室効果ガスによって温暖化が進み、さまざまな環境破壊が起こっているのです。

まず中期的な目標としては、温室効果ガスの排出量を2030年度までに26%削減すること。長期の目標としては、温室効果ガスの排出量を2050年までに80%削減すること



出典：首相官邸ホームページ ([https://www.kantei.go.jp/jp/99\\_suga/statement/2020/1026shoshinhyomei.html](https://www.kantei.go.jp/jp/99_suga/statement/2020/1026shoshinhyomei.html)) 第百三回国会における菅内閣総理大臣所信表明演説より

・今後、私たちは地球環境とどう取り組むべきか？

などについて、考えてみたいと思います。

## 地球温暖化の影響

二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）は温暖化の原因である温室効果ガスの代表的なものです。その大気中濃度は産業革命が始まった1750年以降、急激に高まっています。

私たちは石油や石炭などの化石燃料を燃やしてエネルギーを取り出し、経済を成長させてきました。その結果、大気中のCO<sub>2</sub>濃度は1750年に比べて40%も増加しました。また世界の平均気温は1880年から2012年の間に0.85℃上昇しています。このまま気温上昇が続けば、2030年までに1.5℃上昇するとの研究結果も報告されています。

近年、陸地の砂漠化が進んだり、森林火災や台風が頻繁に発生するなどの災害が後をたちません。これらは地球温暖化が原因であると考えられています。

## 京都議定書とパリ協定

1997年、世界各国の代表が日本の京都に集まって地球温暖化防止京都会議（COP3）を開催しました。これにより二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素（亜酸化窒素）など6種類の温室効果ガスの削減数値目標が採択されました。この「京都議定書」は人類が初めて環境問題と取り組んだ国際条約でした。

しかし、開発途上国の削減値が明文化されていないなどの不備が指摘されたため、あらためて2015年11月30日からフランスのパリにおいて、国連気候変動枠組条約第21回締結国会議（COP21）が開催されました。これは京都議定書に代わる2020年以降の温室効果ガス排出削減等の新たな国際的な取り決めで、先進国・途上国に関係なくすべての国に適用されることが採決されました。これが「パリ協定」で、京都議定書の後継となるものです。

このパリ協定には主要排出国を含む多くの国が参加し、世界の温室効果ガス排出量の約86%、159か国・地域をカバーするものになりました。

した（2017年8月時点）。日本も批准手続きを経て、パリ協定の締結国となりました。この国際的な枠組みの下、日本は主要排出国が排出削減に取り組むよう国際社会を主導し、地球温暖化対策と経済成長の両立を目指していくことになったのです。

日本は現在、年間12億トンを超える温室効果ガスを排出しています。それが今回の「カーボンニュートラル宣言」によって、2050年までに実質ゼロにすると言ったのです。

脱・炭素社会への社会的気運を強めている原動力のひとつに、SDGs（持続可能な開発目標）が挙げられ

を掲げています。

また環境省は「地球温暖化対策の推進に関する法律」を一部改正し、2050年までに「脱・炭素社会」を実現することを記載する方針です。このようにわが国において「脱・炭素社会」への取り組みは着々と進んでいます。

そこで今回は、  
・温室効果ガスが増加している原因は何か？  
・それが環境にどんな影響をもたらしているのか？



ます。日本の各企業もSDGsを意識するようになり、現在では新しい価値観として社会全体で認知され始めています。

具体的な例でいうと、運輸省の目標数値には「2030年半ばまでには、電動車の新車販売を100%実現できるような包括的な措置を講じる」と記されています。



電動車とは、動力源に電気を使う自動車の総称で、電気自動車（EV）・ハイブリッド車（HV）・プラグインハイブリッド車（PHV）・燃料電池車（FCV）などのこと。

以前よりガソリン車から排出されるCO<sub>2</sub>が問題視されていたので、電動車が主流になれば、温室効果ガスの削減や温暖化の抑止になると期待されています。

## カーボンニュートラル社会の実現に向けて

脱・炭素社会の実現には、政府や企業だけでなく個人の取り組みも必要です。

私たちは日常生活においてさまざまな形でエネルギーを消費しています。これを見直すことで、二酸化炭素の排出削減につながるのです。

- たとえば、
- マイカーを利用せず公共交通機関を利用する。
- お風呂の水で洗濯する。
- ごみを少なくする。分別をしっかりと行う。
- エアコンの温度調節やクールビズ・ウォームビズを心がける。
- レジ袋からエコバックへ替える。

公共交通機関は一度に多くの人を運べるので、ガソリンなどの燃焼に由来する二酸化炭素の排出を抑制することができます。

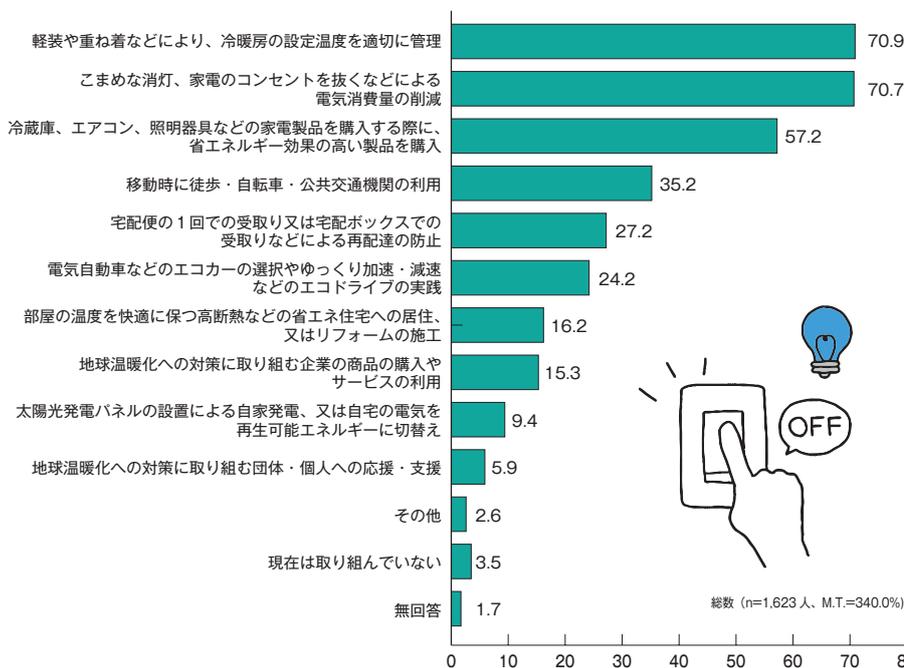
またエアコンの温度調節や、クールビズ・ウォームビズを心がけることで電力の消費を抑えることも温室効果ガスの排出削減につながります。

買い物で使うレジ袋をエコバックに替えるのも、身近にできる二酸化炭素の排出削減につながります。レジ袋本体は石油化学製品で、燃やせば二酸化炭素が排出されます。また、レジ袋の製造・輸送過程にも化石燃料を使うので、これらの削減にもつながるのです。

このように、2050年までに脱炭素を実現するために国や企業の努力だけではなく、個人の協力が不可欠です。

菅首相が脱・炭素を明確に表明した以上、今後さまざまな脱炭素政策が実施されることでしょう。「自分には関係ない」と思わず、「積極的に環境を考える」ことが、私たちの子供や孫たちが安心して暮らせる社会の実現につながるのです。（了）

### ◆「脱炭素社会」の実現に向け、日常生活の中で、現在、取り組んでいることは何かありますか。（複数回答）



### ◆地球環境問題に対する関心

